

熊本大学医学部附属病院

熊本県の地域医療を担う総合診療医の育成に最適なツール

熊本大学では地域医療の研修において今日の臨床サポートを利用している。熊本大学医学部附属病院 谷口純一先生 および初期研修医の香田先生、後藤先生、また地域医療実践教育玉名拠点（以下拠点）で研修医の指導にあっている熊本大学医学部附属病院 小山耕太先生 および後期研修医の楯先生に取材を行った。

導入背景>> 信用できる有用な情報を地域でも利用

谷口先生 熊本大学の地域医療支援センターでは初期研修が終わった3年目以降の後期研修医のうち、総合診療医の専門研修を選択された方々が学外の拠点で学ぶプログラムを行っています。その学習と診療の支援ができないかと考えていたところ、学会で今日の臨床サポートを見て「これは使える」と考えました。

今年から地域卒学生が卒業し始めたのですが、この地域卒学生もへき地を含めた様々な地域をまわることになっています。

学外では本や教科書が揃っていないことも多く、勉強会の開催なども難しいため、**信用できる有用な情報を手軽に利用できれば、地域に行っても色々なことが学べる**のではないかと考えました。

現在は拠点で研修をする研修医および地域卒学生、そしてその指導医に限定して、学外で利用可能なように地域医療センターよりIDとパスワードを貸与して利用しています。インターネットで見ることのできるツールは大学には他にもいくつかあるのですが、大学内のみでしか見ることができません。**IDとパスワードを登録すればオプションのサービスを追加購入しなくても学外でも見ることができる**のは魅力的です。

活用方法①>> へき地でも最新の情報にアクセス

谷口先生 私自身も週1回、天草の公的病院の診療をお手伝いしに行っています。主に内科と救急の外来が中心です。

ダニに噛まれた人など様々な方が来るため、持参薬や治療薬の量を今日の臨床サポートで確認しています。特に合併症については全ての病気の診断基準を覚えているわけではないので、それをパッと見られるのはものすごく助かっています。昨日も使いましたし、本当によく使っています。

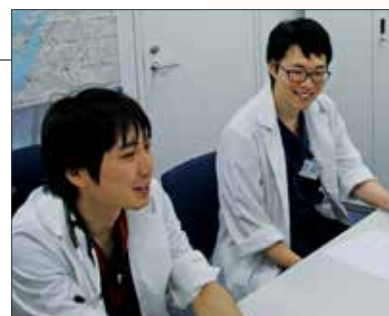
香田先生 私は初期研修の総合診療の研修が拠点だったため、個人IDとパスワードが貸与されています。9月に地域医療研修で奄美大島に行ったときには、研修先の病院が主治医制をとっており、自分も主治医でしたので、病気を家族に説明するときには患者説明資料を印刷してお渡しすることもありました。**まとめて書かれているので説明のポイントが絞れて、どの辺に注意して話せばいいのかというのわかり、助かりましたね。**

また、エビデンスもよく見ます。カルテにアセスメントで書くときには、「この病気はこれと合併することが多いのでそれに気をつける」など、今日の臨床サポートの詳細の部分を参考にすることがあります。



熊本大学医学部附属病院
地域医療支援センター 特任准教授
熊本県地域医療支援機構 理事
救急・総合診療部 副部長

谷口 純一 先生



熊本大学医学部附属病院 初期研修医
香田将英先生 (左)
後藤純一先生 (右)

後藤先生 私は個人の ID やパスワードを貸与されていないので、大学内でしか見られません。1か月の「地域保健・医療」研修では、当然ながら今日の臨床サポートが使えずに「あーあ」と残念に思いました。**専門を決めた後にもすぐ使える**と思っています。私は精神科に行こうと考えているのですが、へき地にある病院に外勤などで行ったときに、専門外のことにも対応しなくてはいけないことが出てくると思うんです。そのような時に内科一般の知識についてすぐに検索できれば、基礎対応はその場でやり、その後大きな病院に紹介するなどということが非常にやりやすいです。まず診断基準が載っていて、検査項目があり、日本国内で使用できるお薬の情報も出てきて、投与量も書かれていますし、本当にすぐに**実践で使えます**。それに**定期的に更新されている**ということで、**安心感があります**。

谷口先生 地方の病院へ行くと薬の本を出してくれたりもするのですが、古い本の場合には載ってなくて、調べるのに却って時間がかかって結局分からない時もあります。やはりこういうツールを使ってパッと調べられるのは本当に助かっていますね。

活用方法②>> 研修医教育に有用な「考えるために調べるツール」

小山先生 私は熊本大学が行っているプログラムで、拠点に来る研修医の指導を行っています。この拠点の活動の大きな役割の1つは、地域に根差した医療を提供するために必要なスキルを身に付けるための教育・研究を、地域医療の現場で実践を通じて行うことです。地域で総合診療を行う上で、今日の臨床サポートは**その場で何が必要かということを判断するための一助として非常に活躍**しています。以前はオンラインのものは英語のものを使っていて、他は紙媒体でした。今日の臨床サポートはアルゴリズムやフローチャートが入っているのがいいですね。全て本文に入っているのではなく、図やエビデンスが紐付されていて、見たいところだけクリックすれば出てくるというのもすごく良いです。

楯先生 今日の臨床サポートは病院の外来の場合には毎回どんな症例にも使っています。拠点では外来に初診で来られる方は本当に当院が初診の方が多いですし、そういった方の場合、症状からの診察や検査の組み立てまで全部こちらで一から組み立てる必要があります。今自分が持っている知識だけで全部網羅できるかという、まだその自信がありませんので確認のために見えています。初期研修医の時には、疑問に思ったことは指導医の先生に聞いたり、自分で持っている書籍などを参照していました。

小山先生 今日の臨床サポートが使えるようになり、研修医側からすると考えるためのツールが与えられたので、質問も「**こういう人が来ていますがけど、どう治療したらいいですか?**」ではなく、「**こういう人が来て、こう考えて、こういうふうな治療をしようと思えますけど、どうですか?**」という**一歩踏み込んだもの**になってきています。最終的にそれが良いかどうかの判断は僕たちもするから、自分で調べて方針を決定しなさいと研修医に求めています。

まとめ>> 今後の活用に向けて

小山先生 地域で必要とされている医師像は、プライマリ・ケアを主に行う医師という調査結果が出ています。白衣を着た目の前にいる「医師」は、患者さんや多くの市民の方の視点では何科の先生でもないはずですが、「医師」はその考えや気持ちに応えられる存在であるべきだと考えています。普通のことですが、その普通のことに応えられる医師をここではちゃんと増やしていこうと考えています。近年、社会は専門性の深さを医師側に求め、医師側はそれに応えてきました。その結果、地域で必要とされる診療領域の広さを有した、総合診療、プライマリ・ケアを行える医師が稀有な存在になっています。この事に端を発し、これからは**総合診療医だけを育てるのではなく、ようは総合診療マインドとスキルを持った医師を育てる**ということなのですが、私たちが求めているのは、眼科医になっても精神科医になっても、市民から見た「医師」としての立場で、市民の気持ちに応えられる医師になってほしいというだけです。今日の臨床サポートはこのような総合診療における臨床上的ツールとして見合うものだと考えています。毎日使っていますが文句はないです。

谷口先生 学外での利用に関しては、地域医療支援センター以外への周知はしていないのですが、学内では学生や看護師でもものすごく使っている人がいます。後期研修で総合診療以外の専門の場合でも地域に出るときには使えるようにしてほしいという意見もありますし、管理も含めて今後どのように活用していくか考えたいです。



熊本大学医学部附属病院
地域医療システム学寄附講座
地域医療実践教育玉名拠点

特任助教 小山 耕太 先生(右)
後期研修医 楯 直晃 先生(左)



エルゼビア・ジャパン株式会社 ソリューション営業本部

〒106-0044 東京都港区東麻布 1-9-15 東麻布 1丁目ビル 3階

TEL 03-3589-6372

FAX 03-3589-6371

E-mail e_info@elsevier.com

販売代理店: